

平成27年度 決算審査

**決算審査特別委員会と企業会計決算審査特別委員会を設置し、適正に予算が執行されているか、期待した行政効果が得られているか、さらには、今後、改善を要する点は何かなどに主眼を置き審査した。主な内容は次のとおり。**

【歳入】

**質 疑** 土地売却収入の収入済額が2億6300万円余となっているが、現在売り払いが可能な未利用地はどのくらいあるのか。また、今後の土地売り払いについて、どのように考えているのか。

**説 明** 市の有する未利用地は、28年8月1日現在で、57件、約6万平方メートル余であり、そのうち収益性が見込めるものについては公売するとともに、市街化調整区域に位置するなど、売却が

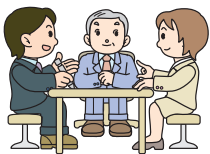
困難なものについては、貸し付けを行うなどして収入の確保に努めていく。

【歳出】

**質 疑** 27年度から、スクールソーシャルワーカーを配置しているが、その活動状況と実績は。

**説 明** スクールソーシャルワーカーは、保護者の監護能力の低い世帯や経済的に困窮している世帯などに対して、教員や保健師などの行政職員と連携しながら、不登校などの問題解決に向けた支援に取り組んでおり、27年度は36件のケースを支援した。学校からは、保健師などの行政職員との連携による効果を評価する声が寄せられており、28年度は8月末現在で、前年度を上回る37件の支援を行っている。今後

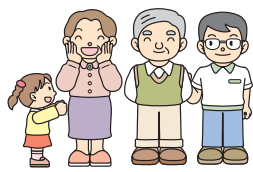
も、事業充実に向けて検討していきたい。



【全般的な事項】

**要 望** 時代の変化に伴い発生する様々な課題に早急に対応するため、柔軟性のある財政運営が求められる中、委託や指定管理など民間活力の導入により、費用を抑制しながらサービスの向上を図る一方で、公共性を担保する必要がある。

また、今後は想定外の災害への備えや、超高齢社会において健康づくりや介護予防などに力を入れて取り組むことにより、市民が安心できる行政運営に取り組んでほしい。



企業会計決算審査特別委員会

**質 疑** 有収率の減少は漏水が原因の一つと考えられるが、その影響はどの程度か。

**説 明** 27年度の漏水量は、配水量全体の8.6パーセントであり、有収率への影響は大きいと考え

る。昨年度から漏水件数は減少しているものの漏水量が増加する状況であり、配水管からの漏水ではなく、老朽化した給水管から新たに漏水が発生しているためと考えている。

今後は、他市の先進事例を参考に、漏水を減少させるための新たな対策を検討していきたい。



▲市上下水道局マスコットキャラクター「水道ぼうや」

下水道事業会計

**質 疑** 企業債について、高利率なものが残っているが、借り換えや、早期の返済を含め、どのように考えているのか。

**説 明** 下水道事業の企業債残高は約662億円であり、そのうち年利4パーセント以上は約80億円である。

高利率の企業債が財政の負担となっていることは、多くの自治体に共通する課題であり、中核市市長会や日本水道協会等において、国に公的資金の補償金免除繰上償還の再実施を求めており、本市も、これに賛同し、要望しているところである。

**中央卸売市場事業会計**

**質 疑** 全国の中央卸売市場における仲卸業者のうち、経常損失が生じた業者の割合は、青果で4割、水産及び食肉で5割と言われているが、本市の仲卸業者の現状は把握しているのか。

**説 明** 仲卸業者については、毎年、決算書などの提出を受け、財務状況を把握しており、27年度では、仲卸業者23社のうち、4社が3年連続で経常損失を生じている。これらの業者に対しては、中小企業診断士を派遣し、必要な経営指導を行うなど、市としても必

要な支援を行っているところである。

**要 望** 市場の最盛期と比べると取扱数量、取扱金額は約半分に減少している状況であり、抜本的な改革を行わなければ、市場の隆盛にはつながらない。

全国的には、中央卸売市場から地方公設市場への移行や、民営化・民間委託への転換などの流れが生まれている。

他市の事例を参考にしながら、審議会や研究会などの協議の場を設け、事業者と十分に協議しながら、開設者として真剣に調査・研究し、よりよい市場をつくる努力をすべきである。



▲宇都宮市中央卸売市場で取引される青果物